



第412号
2024年3月号
(2024年2月25日発行)
カトリック和泉教会

Christòs anesti! “キリストはよみがえられた、本当によみがえられたのだ!” フランシスコ教皇様のメッセージ

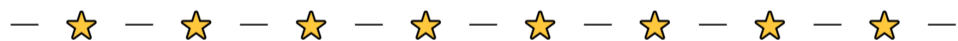
“キリストはよみがえられた、本当によみがえられたのだ!” 信仰によって、この宣言は、イエスの復活が幻想ではなく、真理であることを思い出させてくれる。そして私たちは、それをためらうことなく他の人々に述べ伝えるよう呼びかけている。復活の最初の証人たちは、その模範を示している。たとえば福音書は、復活祭の朝、女性たちが「弟子たちに伝えるために走って行った」(マタイ 28:8) ことを急いで語っている。マグダラのマリヤは「走ってシモン・ペテロのところへ行き」(ヨハネ 20:2)、ヨハネとペテロ自身も「一緒に走って」(4節参照) イエスが葬られた場所に向かった。その後、復活祭の夜、エマオへの道で復活の主と出会った二人の弟子は、「遅れることなく出発し」(ルカ 24:33参照)、エルサレムに戻った(32節参照)。また、ガリラヤ湖のほとり、復活したイエスを見たペテロが、他の人たちと一緒に舟を離れ、すぐさま水の中に身を投げ出して、イエスのほうへ泳いで行ったのと同じ喜びである(ヨハネ 21:7参照)。イースターは、世の希望であるイエスに会うために急ぐ旅なのだ。

私たちもまた、個人間、民族間、そして世界的な信頼という相互信頼の旅に進むことを急ぐことができますように。イースターの喜びの宣言に、私たちの世界の暗闇を照らす光に、私たち自身が驚きを経験することができますように。また、争いと分裂を乗り越え、平和と友愛のために、他者に心を開くことを急ぎましょう。しかし、この役割は簡単ではありませんが、私たちはこの旅路で多くのつまずきに遭遇し、復活の主に向かって、信頼して、急ぐことをより困難で厳しいものにしていきます。“主よ、私たちがあなたに出会うために力付けてください”。穏やかなイースターを過ごしてくださいませように。

Christòs anesti! - “Christ is risen; he is truly risen!” Message from Pope Francis

Christòs anesti! - “Christ is risen; he is truly risen!” This proclamation reminds us that the resurrection of Jesus is not an illusion, but the truth! And we are called to proclaim it to others without hesitation. The first witnesses of the resurrection show this by their example. The Gospels speak of the haste with which, on the morning of Easter, the women “ran to tell the disciples” (Mt 28:8). Mary Magdalene “ran and went to Simon Peter” (Jn 20:2), while John and Peter himself then “ran together” (cf. v. 4) to the place where Jesus had been buried. Later, on the evening of Easter, after meeting the Risen Lord on the road to Emmaus, two disciples “set out without delay” (cf. Lk 24:33) and travelled back to Jerusalem (cf. v. 32). The same joy that led Peter, on the shore of the Lake of Galilee, after catching sight of the risen Jesus, to leave the boat with the others, to throw himself immediately into the water and to swim quickly towards him (cf. Jn 21:7). Easter is a journey quickens to make haste to meet Jesus, who is the hope of the world.

May we too make haste to progress on a journey of reciprocal trust: trust among individuals, peoples and worldwide. May we allow ourselves to experience amazement at the joyful proclamation of Easter, at the light that illumines the darkness of our world. Let us make haste to surmount our conflicts and divisions, and to open our hearts to others, to peace and fraternity. At the same time, along this journey we also encounter many stumbling blocks, which make it more difficult and demanding to hasten towards the Risen Lord. To him, then, let us make our prayer: Lord, help us to run to meet you! Help us to open our hearts!



教会だより 3月号 教皇フランシスコメッセージ 「コロナの世界を生きる」抜粋(22)



第三部 行動するとき(10)

片隅を受け入れることは、世界を広げることです。社会の周縁から見ると、視界はより明瞭で広くなります。私たちは、隣人の中に隠されている知恵を再発見しなくてはならず、それを見えることにしてくれるのか民の活動です。民衆運動を「取るに足りない」「局地的」なものだと片付けるのは間違いです。そこには、社会を再び元気にする力が秘められているのです。

民衆運動が提唱するのは、大量消費主義を拒絶し、生命や連帯、自然を敬う気持ちをとり戻すライフスタイルです。それは、「良い人生」「幸せに生きる」喜びを自指するもので、市場が私たちに売りつけ、終いには私たちに孤立させ、小さな世界に閉じ込める自己中心的な「幸せ」ではありません。

彼らが求めているのは、尊厳ある仕事と住まい、そして小作農者たちへの土地の分配。都会の貧困地区を町の一部として統合すること。女性に対する差別や暴力を抑制すること。あらゆる形態の奴隷制度を廃止すること。戦争、組織犯罪、抑圧を終わらせること。民主主義の表現とコミュニケーションの自由を支援すること。そして、科学と技術が確実に人間のために役立つようにすることです。

どれも、全ての共同体における変化なくしては起こり得ません。そしてその変化は、全ての人が主人公となって具体的な行動をとらなくては起きません。一人ひとりが見て、判断して、そこに欲望があることを感じ、どちらに進むべきかを熟考し、意見を一致させた上で行動するのです。

そんな私たちが感わそうと、数々の誘惑があるでしょう。無力感や怒りに苛まれたり、争いや不満に囚われたり、具体的な行動ではなくスローガンや抽象的なアイデアを重視することもあるでしょう。そして、汚職や腐敗の危険が付きまとうことも厳然たる現実です。だからこそ、民衆運動の大義に加わるには、謙虚さと自分へ厳しさが求められるのです。これは権力へ繋がる道筋ではなく、奉仕への道筋です。ですから、豪華な食事や高級車を好む傾向がある人は、どうか民衆運動や政治から遠ざかって下さい(神学校にもどうぞ近寄らないで下さい)。奉仕に捧げられた実直で謙虚な生活は、ソーシャルネットワークの何千人ものフォロワーよりずっと価値があります。

私たちの最も偉大な力は、他者から尊敬されることではなく、自分が他者に尽くすことです。行動の一つひとつにおいて他者のために考え、人々や共同体の尊厳を確保するための基盤を築くことで、人を癒し、思いやり、分かち合うことができるのです。こうした行動には私たち全員が関わる必要があります、その一方で、政治やビジネスのリーダーたちにもこれらを促進していくためにできることがたくさんあります。

より良い未来を思い描く上で助けになるのが、民衆運動が提唱している3つのLです。私たちが、全ての人に「土地(LAND)」「住まい(LODGING)」「仕事(LABOR)」を行き渡らせることを行動の中心に据えれば、民の尊厳を復活させる好循環が生まれることでしょう。

News from the Church March issue

Message from Pope Francis “Living in the world of Corona” excerpt (22)

Part III: When to Act (10)

To embrace a corner is to expand the world. From the periphery of society, the field of view is clearer and wider. We must rediscover the wisdom that is hidden in our neighbors, and it is the people's activities that make it visible. It would be a mistake to dismiss popular movements as “insignificant” or “local.” It has the power to revitalize society.

The popular movement advocates a lifestyle that rejects mass consumerism and restores a sense of respect for life, solidarity and nature. It aims for the joy of “living a good life” and “living happily”, not the self-centered “happiness” that the market sells to us and eventually isolates us and confines us to a small world.

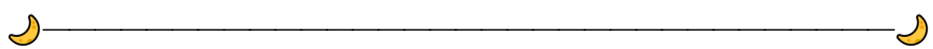
They want dignified work, shelter and the distribution of land to peasants. To integrate urban poor neighborhoods as part of the town. Curb discrimination and violence against women. To abolish slavery in all its forms. To end war, organized crime and oppression. To support democracy's freedom of expression and communication. And to make sure that science and technology are useful for humans.

None of this can happen without change in all communities. And that change will not happen unless everyone becomes the protagonist and takes concrete action. Each of us sees, judges, senses that there is a craving there, ponders which way to go, and acts in a consensus.

There will be many temptations to deceive us. You may feel helpless or angry, trapped in conflict or frustration, or focus on slogans or abstract ideas rather than concrete actions. And the danger of corruption and corruption is also a stark reality. That is why joining the cause of the popular movement requires humility and self-severity. This is not a path to power, but a path to service. So, if you tend to prefer fancy meals and luxury cars, please stay away from popular movements and politics (and away from seminaries). An honest and humble life dedicated to service is worth much more than thousands of followers on social networks.

Our greatest power is not to be respected by others, but to serve others. By thinking for others in every action we take and laying the foundation for ensuring the dignity of people and communities, we can heal, compassionate, and share with others. We all need to be involved in these actions, but there are many things that political and business leaders can do to promote them.

To help us envision a better future, we can see the three L's advocated by the popular movement. If we put “LAND,” “LODGING,” and “LABOR” at the center of our actions, we will create a virtuous cycle that restores the dignity of the people.



いずみブロック四旬節黙想会がありました
広報担当 瀬上 和昭

2月18日和泉教会でブロック黙想会がありました。指導司祭は上田憲神父様でした。テーマは「わたしを見たから信じたのか、見ないのに信じる人は、幸いである」参加者は和泉、岸和田、浜寺の各教会から約30人。

ここからは私が感じたことをつづります
上田神父様のお話の前に今回のテーマに沿った聖書の箇所「ヨハネによる福音書20章19節から29節」の朗読がありました。ここは復活したイエス様が弟子たちに初めて現れる場面、

その時トマスはこの場所に居なかった、「あの方の釘の跡やわき腹の傷を見て触らないと信じない」と言っていたトマスが、イエスを見て信じたとき主に「わたしを見て信じたのか、見ないのに信じる人は、幸いである。」と言われたのです。その後しばらくの黙想。

次に映画「アメーシングジャーニー神の小屋」のDVDを途中まで見て、(そのあとの続きが気になったけど、映画はDVDを借りるかAmazonプライムなどの配信をみてねとのことでした。)講話が始まりました、内容は「見ないのに信じる」を中心に話されていました、信仰は人それぞれ、広さ深さがあると思います。映画の中でも主人公は広く浅く、その妻は深く狭くという風に描かれていました。

どちらが良い、悪いではなくこれまでの、生活や体験を通して育まれたもの。教会に集う方々は、主イエス・キリストを「見ないのに信じている人」ですよね。それは何かの信仰体験があったのでしょうか。わたしは幼児洗礼で、特に神様を身近に体験した、神様の声を聞いたことはないのですが、普段の生活の中で、意識の片隅に神様が居るように感じるので。

見ないのに信じるってどうしてって思いますが、神様は絶えず語り掛けてくださっている、その言葉を聴きとれるのか、単に聞くではなく聴く事が出来ているのか、もしかしたら神様を見ていないのかもしれませんが、観ることができていないのかも。

そんな事を感じる黙想会でした。

古代教会において、四旬節は洗礼志願者ための典礼の季節として形成されたようです、信者に対しては「入信する人々とともに過越の神秘を思い、回心に努め、その模範」となることが呼びかけられ、自分自身を神にささげることが求められます。そのため私たちも洗礼志願者とともに、洗礼によって受けたいのちの回復を願う大切な季節です。

聖書と典礼(四旬節第1主日) 四旬節の典礼の成り立ちと意味より抜粋

お知らせ

ロペス神父様が4月からローマへ異動される事が決まりました。
 浜寺・和泉・岸和田教会のごミサは村田神父様・ジュアン神父様の2名体制になります。
 そのためミサの時間が次のように変更になります。
 8時30分・岸和田教会、 9時30分・浜寺教会、 11時・和泉教会
 また、ジュアン神父様が6月27日～8月28日までインドネシアへ里帰りされます。
 6月30日～8月25日までの期間は、村田神父様一人になります。
 この期間の主日ミサは各小教区ローテーションでミサ時間が変わります。
 土曜日の夜もミサを行う事になります。土曜日夜のミサがあった教会は日曜日の
 ごミサはございません。詳しくは後日お知らせいたします

notice

It has been decided that Father Lopez will be transferred to Rome from April.
 The Mass of Hamadera, Izumi, and Kishiwada Church will be held by two people, Father Murata and Father Juan.
 Therefore, the time of the Mass will be changed as follows.
 8:30 a.m.: Kishiwada Church,
 9:30 a.m.: Hamadera Church,
 11:00 a.m.: Izumi Church
 In addition, Father Juan will return to Indonesia from June 27th ~ August 28th.
 From June 30th ~ August 25th, Father Murata will be alone.
 During this period, the Sunday Mass times of each parish will be rotated.
 Mass will also be held on Saturday night.,The church where the Saturday night mass was held was SundayThere will be no Mass.
 Details will be announced at a later date

岸和田地区 youth からのお知らせ

Youth 春の会 新入生歓迎会を行います。
 日時 4月14日 am11:00～
 場所 岸和田教会
 参加費 中学、高校、大学の新1年生は無料
 その他の学生、子ども ¥500(小学生以下は保護者同伴のこと)
 大人 ¥1000
 内容:みんなで昼食作り(ホットサンド)ゲーム、パーティー

News from Kishiwada District Youth

Youth Spring Meeting We will hold a welcome party for new students.
 Date and time April 14 am11:00～
 place Kishiwada Church
 Participation Fee middle school, senior high school, university Free for new students
 Other students and children ¥500
 (Elementary school students and younger must be accompanied by a guardian)
 Adults ¥1000
 Contents : Making lunch together (Hot Sandwich) Games, Parties

	浜寺 9時30分	和泉 9時30分	岸和田 9時30分
3月主日ミサ予定			
3日(日) 四旬節第3主日	ロペス	ジュアン 評議会	村田
10日(日) 四旬節第4主日	村田・評議会 1100ホトカ語ツボト	ロペス	アンザネロ
17日(日) 四旬節第5主日	ジュアン	村田 11:00 英語	ロペス 評議会
24日(日)(枝の主日) 受難の主日	村田	ロペス	ジュアン 11:00 英語
31日(日) 復活の主日	ロペス	ジュアン	村田



～3月の予定とお知らせ～

※講座「主日のミサの学び」・毎週土曜日14時30分(Sr.ルイザ担当)
 1日(金)初金曜日ミサ・・・9:30～村田神父
 1日(金)歌声ランチ・・・10:30～和泉教会1Fホール
 2日(土)一緒に祈りませんか・・・14:00～泉佐野教会 指導司祭ジュアン神父
 3日(日)聖週間の典礼研修会・・・11時から12時、典礼委員と典礼奉仕者
 3日(日)評議会・・・12:00～信徒会館1F
 17日(日)英語ミサ・・・11:00～村田神父
 17日(日)シナピス移動学習会・・・14:00～泉佐野教会
 テーマ「モザンビークについて戦争と家族」講師イポリト・ヴィタ神父
 23日(土)枝の準備・・・時間は後日お知らせします。
 23日(土)主日のミサ・・・19:30村田神父
 28日(木)～30日(土)までの聖週間のミサは19:30～
 31日(日)ミサ後、復活祭と3月誕生日のお祝いのパーティーをします。



3月の聖堂の掃除：毎週土曜日 AM10:00～お手伝いできる方よろしくお願ひします。

十字架の道行き：3月24日までの主日ミサ後約20分 一緒にお祈りしましょう

3月の 典礼奉仕当番	先唱	朗読	共同祈願
3日(日) 四旬節第3主日	渡辺 直彦	レイシエル 喜山章次郎	ロッチ 西川 保彦
10日(日) 四旬節第4主日	五来 光政	中原ミヨ子 五来 光政	喜山章次郎 中原ミヨ子
17日(日) 四旬節第5主日	瀬上 和昭	勝田恵美子 渡辺 直彦	木村 副見 古木 弘子
24日(日)(枝の主日) 受難の主日	西川 保彦	小山 範子 瀬上 和昭 福音㊿小野田 裕 ㊿古木 弘子	渡辺 直彦 森 郁枝
31日(日) 復活の主日	小野田 裕	西川 保彦 中原ミヨ子	福田 京子 瀬上 和昭

	浜寺 19時00分	和泉 19時30分	岸和田 19時00分
28日聖木曜日 主の晩餐のタベ	村田	ジュアン	ロペス
29日聖金曜日 主の受難	ロペス	村田	ジュアン
30日聖土曜日 復活の聖なる徹夜祭	ジュアン	ロペス	村田

聖週間の 典礼奉仕当番	先唱	朗読	共同祈願
28日聖木曜日 主の晩餐のタベ	瀬上 和昭	第1朗読 西川 保彦 第2朗読 勝田恵美子	柴田 直美 渡辺 直彦
29日聖金曜日 主の受難	渡辺 直彦	第1朗読 小野田 裕 第2朗読 犬塚 福音 ㊿西川 保彦 ㊿渡辺ひろみ	盛式共同祈願 司：神父 助：古木弘子
30日聖土曜日 復活の聖なる徹夜祭	西川 保彦	第1朗読 堀川美智代 第2朗読 渡辺ひろみ 第3朗読 瀬上 和昭 朗読 堀川 学	森 郁枝 喜山章次郎